

令和5年度 庄内町中学校地域クラブ指導者等研修会 講演概要

日時：令和5年11月27日（月）午後6時30分～

場所：余目第四まちづくりセンター

講演 「心をこめる・・・～Open mind creates happiness～」について

酒田市教育委員会 部活動地域移行総括コーディネーター 高橋 健 氏

私は、「幸せを創る」ということを大切にしています。それは、自身が関わった「真の教育」がもととなっています。必ず教員になると決めたきっかけは、大学3年の教育実習の時、なかなか泳ぐことができない児童が一生懸命泳ぎきり、私が伸ばした手に満面の笑みでつかまってきたを目の当たりにしたことです。教員になってからは、中学校でバスケット部の顧問をしていた時、上位大会を目指せるメンバーがそろっていたが2回戦あたりで負けたときがあり、目的をはき違えそうになっていた自身の真の意味での指導力不足を痛感し、その時に「幸せを創る」に出合った。

【「幸せを創る」ということ】

「幸せを創る」ために、4つのことがある。

(1) 命と人権を守る

- ・スポーツハラスメントには、体罰（殴る、蹴る、正座強要）、暴言（怒りの矛先を子どもに向ける）、精神的苦痛（理不尽な連帯責任、威嚇行為）などがあるが、これらを引き起こすのは、「勝利至上主義」がもととなっている場合が多い。
- ・「勝利主義」は、勝つことの喜び、負けることのくやしさを実感させるうえで大事
- ・「至上主義」になることで、勝つことだけが評価され、負けることへの耐性ができていないと大人になった時に自分を見失うこともある。
- ・将棋の羽生善治さんが「負けて得るものは何もない」、「大切なのは過程です。結果だけならじゃんけんでいい」と言っている。相反することのように聞こえるが、結果だけでなく、その前後、その中身全てが大事だということなのだろう。
- ・生徒指導の際に私が言ってきたのは、「言動の裏にある真意に寄り添う」子どもの様子をじっくり観察し本心を理解することが大事
- ・指導者は、体罰や暴言などしてしまったら、それは指導の「敗北」
- ・大人が子どもに対して上から押さえつけるような言い方をしたりするのは卑怯、下に見ているからであり、大人の傲慢さである。
- ・激高して感情を子どもにぶつけるなどあってはならない。大人同士であれば喧嘩になるが、子どもは言われるがまま
- ・人間だけが理性を与えられているが、失うとハラスメントの温床に
- ・子どもたちに「私はできる」と思い込ませることが大事

(2) 他者意識を高める

- ・ルールや約束の意義は、お互いの存在を「守るため」にある
- ・スポーツを通して、順法意識を育てる。
- ・大人が姿勢を示す。柔軟な判断、例外のない規則はない。
- ・ガイドラインに沿ってやることが大事
- ・スポーツの中で「道徳心」と「マナー」は身につけさせられる

(3) 自主性を育てる

- ・自信を持たせることが重要。
- ・「自主性」を持たせるためには「自信」が必要、自信を育てるためには「自己肯定感」が大事、自己肯定感を育てるためには「達成感」が大事、達成感を持たせるためには「メタ認知（自分を鏡に映してモニタリングすること 自分のことが分かる）」が必要
- ・上達するためにはどうしたらいいか。めあてを持たせアドバイスの繰り返し
- ・できなかった時の対応は、叱ることでなく、良かった部分を見つけて自信をつけさせる。できたときは、褒めてやる。
- ・部活ノートの活用・・・生徒が立てる練習メニュー、生徒と指導者との意見のやり取り
- ・週1回のミーティングデー・・・活動はせず、ミーティングのみ。自分たちだけで考えて話し合う。先生から一方的な言葉で教えない。
- ・指導においては、その時やるべきことと成長してからやるべきことがあるが、それを飛び越えて指導し、期待してはいけない。指導には適時性がある。
- ・適したタイミングで指導し、支える。啐啄同時

(4) 意思疎通という幸せ

- ・子どもからは「先生は私の気持ちなんて分からない」と言われるが、その時は「分からない。予想はつくがわからない。だからきちんと話しをしてほしい。」と伝えている。
- ・オープンマインド お互い信頼しているかがカギ ⇒幸せを創り上げていく
- ・クローズマインド 自分の考え方に合わない考えや人を拒否する非寛容的な人
- ・リコー創業者：市村清さんの言葉 「できない理由を考える前に、できる方法を考える」そのためには、日常生活に余裕を持つ、その子の背景にどのようなことがあった想像する、子どもにも正直に謝れることが大事

【酒田市の部活動改革】

(1) 目的

- ・目標や競技力に応じた自由選択
- ・生徒と地域のつながりと活性化
- ・学校教育活動の充実

(2) 方向性

- ・中学校区が基本
- ・「生涯スポーツ」と「競技スポーツ」を分けて考えていこうとしている。

(3) 大切にしたいこと

- ・「平等」格差なく、公平にスポーツができる
- ・「楽しさ」辛い・怖い練習をするのではなく、とにかくスポーツを楽しんでもらう
- ・「自由」選ぶのも続けるのも辞めるのも自由で、全て子ども中心で考える
- ・「体育」は学校指導要領で、やることややらなければならないことが決められているが、「スポーツ」は上記3点を踏まえて行える。
- ・年次計画を立てる。
- ・サポーターバンクを立ち上げた。当初は指導者バンクとする予定であったが、資格や指導経験の有無が問題になってしまうので、サポーターとした。指導経験がなくても指導者と一緒に子どもと身体を動かそう、運動は苦手だが運営に協力できる方もいるかもしれないということで幅広く募集をかけ、サポーターとして登録してもらう予定
- ・今年度の重点 「移行目的の理解促進」と「人材の発掘と育成」

小・中学生全員、保護者に説明資料の配布
酒田市は、指導者が不足しているので、人材の発掘から始める
今後、文化部のサポーターも募集する予定
総合型地域スポーツクラブへの支援、保護者会クラブから地域クラブへの移行支援など、環境の整備を図る

【教員の働き方改革】

学校の先生を休ませて、外部指導者の負担を大きくするのと言われるが・・・

- ・ 目的は学校教育の充実を図るため。(子どもたちの学力を上げる、生き方を教える、等)先生たちに余裕がないと笑顔でじっくり子どもと向き合えないということもある。
- ・ 以前は、部活を頑張る先生がいい先生とみられていたが、やはり基準は授業である。勉強の楽しさを教えて、生き方を教えて、道徳性を高めることこそがいい先生であり、子どもと向き合う時間を大切にしていることが大事
- ・ 部活動が果たしてきた大きな役割に生徒指導があるが、今の生徒指導は多様化、複雑化、重篤化、深刻化、不透明化している。その中で、部活動で生徒指導を担うのは無理があり過ぎる。
- ・ 先生同士が情報共有し、子どもと直接色々な話をして前に進んで解決していかないといけない。

おわりに…

「いい仕事をしたかよりも どれだけ心をこめたかです (マザー テレサ)」